



廿日市市立佐伯中学校 令和6年度

【自律】学校だより

ホームページ [http:// www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/](http://www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/)

学校教育目標:「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」

3月号 (No.28)

令和7年

3月19日 (水)

第56回卒業証書授与式を終えて

3月7日(金)に55名の3年生が佐伯中学校を卒業しました。1・2年生の皆さんは、3年生が堂々と証書を受け取る姿や、涙をこらえながら一生懸命歌う姿、そして退場していく姿を見てどんなことを感じましたか。

翌日の中国新聞に、吹奏楽部が地域の皆さんの助太刀で素敵な演奏をしてくれた記事が大きく載っていました。3年生を多くの皆様の協力を得て送り出すことができ良かったと思います。

1・2年生の皆さんが下校した後、3年生は各教室で担任の先生との中学生最後の学活が行われました。しみりした雰囲気の間があたり、笑い声が起こる間があたりと、担任の先生や友達との大切なひとときだったと思います。その様子を温かく見守る多くの保護者の方がおられ、卒業生にとって素敵な時間が流れていました。

学活が終わり、3年生は生徒玄関を出て先生達と保護者の方々とでつくれた「花道」を歩いて行きました。笑顔で歩く生徒もいれば、そこでもまた涙を流す生徒もいました。感受性の豊かさを大切に、佐伯中学校の生徒として過ごした思い出をいつまでも忘れないでください。

1・2年生の皆さん、2年後または1年後の自分たちの卒業する姿を想像してみてください。あの先輩達のように、いい卒業式にしたいですね。そのためにも皆さんがこれからさらに心身ともに成長していかなければなりません。3学期が間もなく終わり、春休みに入ります。進級の心構えはできましたか。4月には先輩らしく「凜とした姿」を後輩に見せましょう。



入場の様子



卒業証書授与の様子



「旅立ちの日に」



退場の様子



吹奏楽部と大人との演奏



3年1組の様子



3年2組の様子



3年2組の様子



3年1組の様子



花道を通る3年2組



集合写真3年1組

被爆80年に向けた取組について

昭和20年8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下され、多くの命が一瞬にして失われました。今年の8月6日は、あの日から80年の節目となります。当時、多くの方が被災されましたが、生き残った方が、困難を乗り越え、力強く生きてこられ、広島の復興に貢献されました。

生徒の皆さんも記憶に新しい G7 サミットやノーベル平和賞受賞などで注目を集める広島ですが、被爆された方は当時10歳だった方も今は90歳になられます。核兵器の残酷さを、身をもって知る方々が、被爆の悲惨な状況を若い世代に伝えることが難しくなっています。

そのような状況の中、被爆体験者の言葉を受け継ぎ、伝えようとする若者がいます。広島大学医学部6年の井上つぐみさん(写真)です。4月からは研修医として広島大学病院で働くそうです。

実は、井上さんが中学生の時に数学を教えていたのが校長先生です。その縁もあって校長先生が「佐伯中学校に来て語ってもらえませんか。」とお願いしたところ、井上さんから「ぜひお話をさせてください。」というお返事をいただきました。



広島市の被爆体験伝承者を務める井上さんは、原爆で孤児となった故川本省三さんの言葉を県内外の方へ伝えていきます。(写真は那时的様子です)例えば「11歳の時に原爆で両親と2人の姉、弟、妹の6人を失い、独りぼっちになってしまいました。不安とあまりのショックで、涙も出なかったそうです。」といった話を含めて、川本さんから生前に伺った様々なお話を佐伯中の生徒に向けて語ってくださるのではないのでしょうか。実施は6月頃になると思いますが、先生たちも一緒に聴かせてもらい、生徒の皆さんと平和への思いを共有したいと考えています。